『スタディ生理学・口腔生理学』第3版 正誤表

P23 L.4 第:A抗原に反応するA抗停とB抗原に反応するB抗体がある。 P23 L.9 第:A型のとトの場所は表面にはA抗原があるが血漿には抗野体が、定:A型のとトの場所は表面にはA抗原があるが血漿には抗野体が、注:A型のとトの場所は表面にはA抗原があるが血漿には抗野体が、注:接近動脈 注:接近動脈 注:接近動脈 注:接近動脈 注:接近動脈 注:接近動脈 注:接近動脈 注:接近的素量 注:接近的素素を 注: 不 F C L S E S L T C R E S S L D M E S S S S S S S S S S S S S S S S S S	7V. 11 557 7		
上:八郎原に反応するが八郎体と野郎原に反応する前野館体がある。 日本語のヒトの赤田球表面には水原原があるが血漿には日野体が、 正・及のヒトの赤田球表面には水原原があるが血漿にはお野体が、 京・潜在動脈 正・淡在動脈 正・淡在動脈 正・淡在動脈 正・淡在動脈 正・後難的異常量 正・戦難的異常量 正・戦難的異常量 正・戦難的異常量 正・戦難的異常量 正・戦難的異常 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	発生箇所	内容	
23	P.23 L.4		
正:A型のヒトのか血球表面にはA抗原があるが血漿には抗B抗体が、 沢:潜電動脈 正:技術的影響 上:機能的影響			
PAS L10 誤: 海在動脈 正: 浅年動脈 正: 浅年動脈 正: 浅年動脈 正: 浅年動脈 正: 後継的度器量 正: 機能的度器量 正: 体標準的残器量 正: 本・ケリロピン (村配) の酸素鏡和度 (何%の村成が0)と社合しているか) 正: ヘ・ケリロピン (村配) の酸素鏡和度 (何%の村成が0)と社合しているか) 正: ヘ・ケリロピン (村配) の酸素鏡和度 (何%の村のが0)と社合しているか) 正: 小・ケリロピン (村配) の酸素鏡和度 (何%の村のが0)と社合しているか) 正: 小・大りロピン (村配) の酸素鏡和度 (何%の村のが0)と社合しているか) 正: 小・地の寒遊費が見ないの味。 正: 小・から解離する0)量が多くなり、 正: 小・から解離する0)量が多くなり、 正: 小・中の半変を書替る0)量が多くなり、 正: 小・中の半変を書替る0)量が多くなり、 正: 小・一下化学受容器のCO)上昇に対する地度 正: 小・一下化学受容器のCO)上昇に対する地度 正: 小・一下で化学会容器のCO)上昇に対する地度 正: 一下では一次温度が上昇すると 上の臓器 上の世間を 上	P.23 L.9		
正:漢本動脈			
P.50 L.5 提出機能的素語 正:機能的終為語 正:機能的終為語 正:機能的終為語 正:機能的終為語 正:人モグロビン (Hg) の酸素飽和度 (何%のHgがの)と結合しているか) 正:人モグロビン (Hg) の酸素飽和度 (何%のHgがの)と結合しているか) 正:人モグロビン (Hg) の酸素飽和度 (何%のHgがの)と結合しているか) 日本の	P.43 L.10		
正:機能的残器呈 説・ヘモグロビン (Hg) の酵素飽和度 (何%のHgがO2と結合しているか) 正:へモグロビン (Hg) の酵素飽和度 (何%のHgがO2と結合しているか) 正:小モグロビン (Hg) の酵素飽和度 (何%のHgがO2と結合しているか) 正:小田の酸素飽和度は97.5%。 正:中の酸素飽和度は97.5%。 正:中の酸素飽和度は97.5%。 正:地から解離する05量が多くなり、 正:比から解離する05量が多くなり、 正:比から解離する05量が多くなり、 正:大田がら解する05量が多くなり、 正:大田がら解する05量が多くなり、 正:大田を受受容器 (Accordance of the control of the co			
PSO L30 課:ヘモグロビン(Hg)の職業的和度(何%のHgがO₂と結合しているか) 正:ヘモグロビン(Hb)の職業的和度(何%のHbがO₂と結合しているか)	P.49 L.5		
E: ヘモグロビン (Hb) の曖素勢和度 (何)%のHbがO₂と結合しているか) P:50 L32 誤: Hgの曖素勢和度 (497.5%、 正: Hbの酸素勢和度 (497.5%、 正: Hbの診解離するO₂型が多くなり、 P:51 L7~8 誤: Hgから解離するO₂型が多くなり、 正: Hbから解離するO₂型が多くなり、 P:53 図9 誤: 財力化学契容器 P:53 L19 誤: 中枢化学受容器のCO₂上足に対する域 P:55 L3 誤: b、同じ酸素分圧でも血液温度が上臭するとHg酸素飽和度が増す。 正: b、同じ酸素分圧でも血液温度が上臭するとHg酸素飽和度が増す。 P:56 L.3 誤: b、血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。 正: b、血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hb酸素飽和度は低下する。 正: 情境問題 P:58 L27 誤: 特殊受容器型刺激され 正: 伸展受容器型刺激され 正: 伸展受容器型刺激され 正: 他用受容器型刺激され P:76 L21 誤: Na*の再吸収を促進する。 正: Na*の再吸収を促進する。 正: Na*の再吸収を促進する。 P:82 L5・11 誤: コルチンゾール / ルチゾール E : Na*の再吸収を促進する。 正: Na*の再吸収を促進する。 P:87 L31 誤: コルチンゾール / ルチゾール E : Na*の再吸収を促進する。 正: Na*の再吸収を促進する。 P:87 L31 誤: バラトルモン 正: エ・バラソルモン E : Na*の再吸収を促進する。 正: 原活の整備のの P:92 L4 誤: 尿道の「医療の回り 正: 尿道の性能ののの 正: 尿道の性能ののの 正: 尿道の性能ののの 正: 尿道の性能ののの 正: 尿道の性能ののの 正: 緑流体に自動性経 正: 遠心路・体性神経 正: 遠心路・体性神経 正: 遠心路・体性神経 正: 遠心路・体性神経 正: 遠心路・体性神経 正: 遠心路・体性神経 正: 違い財際を 正: 2点 所別を 正: 2点 所別を 正: 2点 所別的体の 正: 2点 所別を 正: 2点 所別的体の 正: 2点 所別的体の 正: 2点 所別的体の 正: 2点 所別を 正: 2点 所別			
P.50 L.32 誤: Hsの酸素飽和度は97.5%、 正: Hbの酸素飽和度は97.5%、 正: Hbの酸素飽和度は97.5%、 正: Hbの診解計するO₂量が多くなり、 正: Hbのか解離するO₂量が多くなり、 正: hbの心解離するO₂量が多くなり、 P.53 区9 誤: 抹消化学支容器 P.53 L.19 誤: 本格化学支容器のCO₂上昇に対するは 正: 中枢化学支容器のCO₂上昇に対するB度は P.56 L.3 誤: b. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHp酸素飽和度が増す。 E. b. 面流温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hp酸素飽和度は低下する。 正: b. 面流温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hp酸素飽和度は低下する。 P.56 L.9 誤: 胃液質門部 E. c. p.	P.50 L.30	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
正: Hbの酸素飽和度は97.5%、 P.51 L.7~8 誤: Hgから解離するの。量が多くなり、正: Hbから解離するの。量が多くなり、理: 大角化学受容器の (20)。正: 末梢化学受容器の (20)。正: 末梢化学受容器の (20)。上昇に対するは正: 中枢化学受容器の (20)。上昇に対する (20)。			
P.53 L.7~8 調: Haから解離するO₂並が多くなり、 P.53 図	P.50 L.32		
正:Hから解離するQ型が多くなり、			
P.53 図9 誤: 抹消化学受容器 キャブション 正: 末橋化学受容器のCO2上昇に対する感度は P.53 L.19 試: 中枢化学受容器のCO2上昇に対する感度は P.56 L.3 試: り. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素絶和度が増す。 正: り. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素絶和度が増す。 正: り. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素絶和度が増す。 P.56 L.9 試: 自 施液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。 E: 胃嗅門部 正: 日 強限受容器差刺激され P.76 L.21 誤: ルョーの再吸収と促進する。 E: Na+の再吸収と促進する。 正: Na+の再吸収を促進する。 P.82 L.5・11 誤: コルチソゾール / ルチゾール E: コルチソゾール / ルチゾール エ: コルチソゾール P.87 L.31 試: パラ・トルモン E: バラ・トルモン 正: バラ・トルモン E: パラ・ルモン 正: バラ・ルモン E: アメリルモン 要: 尿道の骨盤底のの E: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道が骨盤底のの P.92 L.12 誤: 尿道口(尿道側口部) P.93 L.4 誤: 遠途路: 体性神経 正: 遠心路: 体性神経 正: 適か時に E: 環境体 (尾状核 (caudate nucleus) と被殺 (putamen)) からなる E: 第二腹筋後腹 正: 第二腹筋後腹 P.112 L.10 誤: 名 無外体 (尾状核 (caudate nucleus) と被殺 (putamen) からなる E: 第二腹が砂酸 正: 高 無足が砂砂で減少 E: 2 点 素 別開体の 正: 2 点 素 別開体の E: 2 点 より 別開体の 正: 2 点 素 別開体の E: 2 点 素 別開体	P.51 L.7~8		
キャプション 正:末梢化学受容器 P.53 L.19 課:中枢化学受容器のCO2上昇に対するは 正:中枢化学受容器のCO2上昇に対する様度は P.56 L.3 課: b、同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素飽和度が増す。 正: b、同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素飽和度が増す。 E.56 L.9 課: b、血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。 P.58 L.27 課: 胃液傾門部 正: 胃液傾門部 P.65 L.9 課: 仲展受容器差刺激され 正: 仲展受容器が刺激され P.76 L.21 課: Na * の再吸収と促進する。 正: Na + の再吸収を促進する。 正: Na + の再吸収を促進する。 P.87 L.31 課: コルチゾール / ルチゾール 正: コルチゾール / ルチゾール P.87 L.31 課: パラトルモン 正: パラソルモン 正: パラソルモン P.88 L.8 課: 尿道が骨盤底の 正: 尿道が骨盤底の 正: 尿道が骨盤底の P.99 L.12 課: 尿道の保管側口部) 正: 尿管回 (尿管側口部) P.98 L.4 課: 遠心路: 自健神経 正: 遠心路: 体性神経 正: 遠心路: 体性神経 正: 選へ路(では状核 (caudate nucleus) と被紋 (putamen) 〕からなる 正: 銀条体 (尾状核 (caudate nucleus) と被紋 (putamen) からなる) P.107 L.6 課: 環上機筋 正: 環上機筋後腹 P.112 L.10 課: 京康別職体の 正: 2点弁別職体の 正: 2点弁別職体の 正: 2点弁別職体の 正: 2底弁別職体の 正: 2底外職体の 正: 2底外職体の 正: 2底外職体の 正: 2底外職体の 正: 2底外職体の 2底外は、2のの 2のの 2のの 2のの 2のの 2のの 2のの 2のの 2のの 2のの			
P.53 L.19 選:中枢化学受容器のCO2上昇に対するは 正:中枢化学受容器のCO2上昇に対する感度は P.56 L.3 類: b、同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素飽和度が増す。 P.56 L.9 課: b、血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。 E.58 L.27 選: 胃液噴門部 正: 胃喉門部 正: 胃喉門部 正: 胃喉門部 P.76 L.9 題: 内展受容器差刺激され 正: Na+の再吸収を促進する。 正: Na+の再吸収を促進する。 正: Na+の再吸収を促進する。 P.78 L.31 類: コルチソゾール / ルチゾール 正: ボラソルモン P.89 L.8 類: ボデトルモン 正: ボラソルモン P.89 L.8 選: ボ遊が骨盤底のの 正: 床道が骨盤底のの 正: 床道が骨盤底のの 正: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道・原生間口部) 正: 尿管間口部) 正: 尿管間口部) P.98 L.4 題: 滅・路・自・神経 正: 遠心路・体性神経(運動神経) ・正: 遠心路・体性神経(運動神経) ・正: 遠小路・体性神経(運動神経) ・正: 現条体 [尾状核 (caudate nucleus) と被数 (putamen) からなる 正: 銀条体 [尾状核 (caudate nucleus) と被数 (putamen) からなる) P.107 L.6 誤: 頭二腹筋後腹 P.112 L.10 誤: 名・外間域体の 正: 点・全域・外別域やの 正: 点・全域・外別域やの 正: 庭・発列間は P.123 L.5 誤: 高重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 P.121 L.22 誤: 明所			
E: 中枢化学受容器のCO2上昇に対する感度は R:5c L.3 誤: b. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素飽和度が増す。			
P.56 L.3 誤: b. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHg酸素飽和度が増す。正: b. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHb酸素飽和度が増す。正: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。正: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hb酸素飽和度は低下する。即: 胃液噴門部正: 胃噴門部 P.58 L.27 誤: 胃液噴門部正: 胃噴門部 P.65 L.9 誤: 伸展受容器差刺激され正: 仲展受容器差刺激され正: 仲展受容器が刺激され P.76 L.21 誤: Na*の再吸収を促進する。正: Na+の再吸収を促進する。正: Na+の再吸収を促進する。理: バラナルモン P.87 L.31 誤: ゴルチソプール / ルチゾール / ルチゾール P.87 L.31 誤: バラトルモン / ルモン / エ・パラ・ルモン / ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	P.53 L.19		
E: b. 同じ酸素分圧でも血液温度が上昇するとHb酸素飽和度が増す。 P.56 L.9 誤: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。正: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hb酸素飽和度は低下する。如: 胃疫慣門部工: 胃噴門部。如: 伸展受容器差刺激され。如: 伸展受容器が刺激され。如: 伸展受容器が刺激され。如: 中原受容器が刺激され。如: 中原受容器が刺激され。如: 中原受容器が刺激され。如: Na + の再吸収を促進する。如: Na + の中吸収を促進する。如: Na + の中吸収を促進する。如: Na + の中吸収を促進する。如: Na + の中吸収を促進する。如: Na + の中の再吸収を促進する。如: Na + の中の収収を促進する。如: Na + の中の収収を促進する。如: Na + の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の			
P.56 L.9 誤: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hg酸素飽和度は低下する。 正: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hb酸素飽和度は低下する。 P.58 L.27 誤: 胃液噴門部 正: 胃噴門部 P.65 L.9 誤: 内展受容器差刺激され 正: 仲展受容器が刺激され P.76 L.21 誤: Na + の再吸収を促進する。 正: Na + の再吸収を促進する。 P.87 L.31 誤: ステンルモン 正: スランルモン 正: ボランルモン P.89 L.8 誤: 尾道の骨盤底のの 正: 尿道の骨盤底の 正: 尿道の「尿道間口部) 正: 尿管口(尿道間口部) P.92 L.4 誤: 適心路: 自律神経 正: 遠心路: 体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤: 線条体(尾状核(caudate nucleus)と被殼(putamen)」からなる 正: 線条体(尾状核(caudate nucleus)と被殼(putamen)からなる 正: 線条体(尾状核(caudate nucleus)と被殼(putamen)からなる) P.112 L.10 誤: 三流 上鏡筋後腹 P.113 L.10 誤: 直上針別関は 民主、発力関は P.124 L.5 誤: 高重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 E.125 誤・重量は加齢で減少 E.126 誤・重量は加齢で減少 E.127 L.22 誤・郵酬	P.56 L.3		
E: b. 血液温度の上昇は酸素解離曲線を右にシフトさせるので、Hb酸素飽和度は低下する。 R: 胃液噴門部 正: 胃噴門部 E: 自展受容器差刺激され 正: 伸展受容器が刺激され E: 中展受容器が刺激され 正: 中展受容器が刺激され E: Na+の再吸収と促進する。 正: Na+の再吸収を促進する。 E: Na+の再吸収を促進する。 誤: コルチソプール / ルチゾール E: コルチソプール / ルチゾール 正: ポラソルモン E: R			
P.58 L.27 誤:胃漢質門部 正:胃質門部 正:胃質門部 器:仲展受容器差刺激され 正:仲展受容器が刺激され 。	P.56 L.9		
P.65 L.9 課: 伸展受容器差刺激され P.76 L.21 課: Na ⁺ の再吸収を促進する。 E.82 L.5・11 課: Na ⁺ の再吸収を促進する。 P.87 L.31 課: パラトルモン 正: パラソルモン 理: パラソルモン 理: パラソルモン 理: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道に 保管側口部) 正: 尿管口 (尿管側口部) 理: 遠心路: 自律神経 正: 遠心路: 自律神経 正: 遠心路: 合性神経 (運動神経) P.98 L.4 課: 線条体 (尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) 」からなる 正: 線条体 (尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる) 理: 額二腹筋後腹 P.107 L.6 課: 第二腹筋後腹 P.112 L.10 課: 高重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 P.127 L.22 課: 明所			
P.65 L.9 誤: 仲展受容器差刺激され P.76 L.21 誤: Na ⁺ の再吸収を促進する。 正: Na + の再吸収を促進する。 正: Na + の再吸収を促進する。 P.82 L.5・11 誤: コルチソゾール / ルチゾール E: コルチソゾール ア・ファール P.87 L.31 誤: パラトルモン 正: パラソルモン P.89 L.8 誤: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道回(尿道開口部) 正: 尿管回(尿管開口部) 正: 尿管回(尿管開口部) P.98 L.4 誤: 遠心路: 自律神経 正: 遠心路: 自律神経 正: 遠心路: 体性神経 (運動神経) P.103 L.3 誤: 線条体(尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)」からなる 正: 線条体(尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる) 正: 颞二腹筋後腹 P.112 L.10 誤: 2 点弁別関体の 正: 2 点弁別関体の 正: 2 点弁別関体の 正: 2 点弁別関は 原: 高重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 P.127 L.22 誤: 明所	P.58 L.27	誤:胃 <mark>液</mark> 噴門部	
P.76 L.21			
P.76 L.21 誤:Na+の再吸収を促進する。 正:Na+の再吸収を促進する。 誤:コルチソゾール / ルチゾール 正:コルチゾール 課:コルチゾール P.87 L.31 誤:バラトルモン 正:バラソルモン P.89 L.8 誤:尿道が骨盤底の P.92 L.12 誤:尿道口(尿道開口部) 正:尿管口(尿管開口部) P.98 L.4 誤:遠心路:自律神経 正:遠心路:体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤:線条体[尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) 〕からなる 正:線条体[尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる) P.107 L.6 誤:第二腹筋 正:第二腹筋後腹 P.112 L.10 誤:2点弁別閾体の 正:2点弁別閾は P.123 L.5 誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 P.127 L.22 誤:明所	P.65 L.9		
正: Na+の再吸収を促進する。 田: Na+の再吸収を促進する。 田: コルチソブール		正:伸展受容器が刺激され	
P.82 L.5・11 誤: コルチゾール / ルチゾール 正: コルチゾール P.87 L.31 誤: パラトルモン 正: パラソルモン P.89 L.8 誤: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底の原理 (尿道開口部) 正: 尿管口 (尿管開口部) P.98 L.4 誤: 遠心路: 自律神経正: 遠心路: 体性神経 (運動神経) P.103 L.3 誤: 線条体 (尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる正: 線条体 (尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる) P.107 L.6 誤: 顎二腹筋 四: 第二腹筋後腹 P.112 L.10 誤: 2点弁別閾体の正: 2点弁別閾は P.123 L.5 誤: 高重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少 E.127 L.22 誤: 明所	P.76 L.21	誤:Na ⁺ の再吸収 <mark>と</mark> 促進する。	
P.87 L.31 正: コルチゾール P.87 L.31 誤: パラソルモン P.89 L.8 誤: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道が骨盤底のの正: 尿道(尿道開口部) P.92 L.12 誤: 尿道口(尿道開口部) P.98 L.4 誤: 遠心路: 自律神経正: 遠心路: 体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤: 線条体 [尾状核 (caudate nucleus) と被殼 (putamen) 」からなる正: 線条体 [尾状核 (caudate nucleus) と被殼 (putamen) からなる) P.107 L.6 誤: 第二腹筋 正: 類二腹筋後腹 P.112 L.10 誤: 2 点弁別閾体の正: 2 点弁別閾体の正: 2 点弁別閾はの正: 2 点弁別閾はのの正: 2 点弁別閾はのの正: 2 点弁別閾はのの正: 2 点弁別閾はのの正: 2 点針別閾はののには、			
P.87 L.31 誤:パラトルモン 正:パラソルモン P.89 L.8 誤:尿道が骨盤底のの 正:尿道が骨盤底の P.92 L.12 誤:尿道口(尿道開口部) 正:尿管口(尿管開口部) P.98 L.4 誤:遠心路:自律神経 正:遠心路:体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤:線条体[尾状核 (caudate nucleus) と被殼 (putamen) 〕からなる 正:線条体[尾状核 (caudate nucleus) と被殼 (putamen) からなる) P.107 L.6 誤:第二腹筋 正:顎二腹筋後腹 P.112 L.10 誤:2点弁別閾体の 正:2点弁別閾は P.123 L.5 誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 P.127 L.22 誤:明所	P.82 L.5 · 11	誤:コルチソゾール / ルチゾール	
正:バラソルモン 正: バラソルモン 説: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道が骨盤底のの 正: 尿道口(尿道開口部) 正: 尿管口(尿管開口部) 正: 尿管口(尿管開口部) 正: 尿管口(尿管開口部) 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日		正:コルチゾール	
P.89 L.8 誤:尿道が骨盤底のの正:尿道が骨盤底のの正:尿道(尿道開口部) P.92 L.12 誤:尿道口(尿道開口部) P.98 L.4 誤:遠心路:自律神経 正:遠心路:体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤:線条体〔尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) 〕からなる正:線条体〔尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる〕正:線条体〔尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる〕正:線条体〔尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる〕正:線条体〔尾状核 (caudate nucleus) と被殻 (putamen) からなる〕正:額二腹筋後腹 P.112 L.10 誤:第二腹筋後腹 P.112 L.10 誤:2点弁別閾体の 正:2点弁別閾は P.123 L.5 誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 E.127 L.22 誤:明所	P.87 L.31	誤:パラトルモン	
<td 2"="" color="</th" rowspan="2"><td></td><td>正:パラソルモン</td></td>	<td></td> <td>正:パラソルモン</td>		正:パラソルモン
P.92 L.12 誤:尿道口(尿道開口部) 正:尿管口(尿管開口部) P.98 L.4 誤:遠心路:自律神経 正:遠心路:体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen))からなる 正:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる〕 P.107 L.6 誤:顎二腹筋 正:顎二腹筋後腹 P.112 L.10 誤:2点弁別閾体の 正:2点弁別閾は P.123 L.5 誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 日: 明所		P.89 L.8	誤:尿道が骨盤底の <mark>の</mark>
<th 2"="" color="</th" rowspan="2"><td></td><td>正:尿道が骨盤底の</td></th>	<td></td> <td>正:尿道が骨盤底の</td>		正:尿道が骨盤底の
P.98 L.4 誤:遠心路:自律神経 正:遠心路:体性神経(運動神経) P.103 L.3 誤:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)〕からなる 正:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる〕 P.107 L.6 誤:顎二腹筋 正:顎二腹筋後腹 P.112 L.10 誤:2点弁別閾体の 正:2点弁別閾は P.123 L.5 誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少 P.127 L.22 誤:明所		P.92 L.12	誤:尿 <mark>道</mark> 口(尿 <mark>道</mark> 開口部)
<td 2"="" color="</th" rowspan="2"><td></td><td>正:尿管口(尿管開口部)</td></td>	<td></td> <td>正:尿管口(尿管開口部)</td>		正:尿管口(尿管開口部)
P.103L.3誤:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)」からなる 正:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる〕P.107L.6誤:顎二腹筋 正:顎二腹筋後腹P.112L.10誤:2点弁別閾体の 正:2点弁別閾はP.123L.5誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少P.127L.22誤:明所		P.98 L.4	誤:遠心路: <mark>自律</mark> 神経
<th 2"="" are="" color="</th" models="" rowspan="2"><td></td><td>正:遠心路:体性神経(運動神経)</td></th>	<td></td> <td>正:遠心路:体性神経(運動神経)</td>		正:遠心路:体性神経(運動神経)
P.107L.6誤: 顎二腹筋 正: 顎二腹筋後腹P.112L.10誤: 2点弁別閾体の 正: 2点弁別閾はP.123L.5誤: 高重量は加齢で減少 正: 脳重量は加齢で減少P.127L.22誤:明所		P.103 L.3	誤:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)〕からなる
<th color="</th" rowspan="2"><td></td><td>正:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる〕</td></th>	<td></td> <td>正:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる〕</td>		正:線条体〔尾状核(caudate nucleus)と被殻(putamen)からなる〕
P.112 L.10誤: 2点弁別閾体の 正: 2点弁別閾はP.123 L.5誤:高重量は加齢で減少 正:脳重量は加齢で減少P.127 L.22誤:明所		P.107 L.6	誤:顎二腹筋
<th cm="" color="" color<="" of="" rowspan="2" th="" the="" =""><td></td><td>正:顎二腹筋後腹</td></th>	<td></td> <td>正:顎二腹筋後腹</td>		正:顎二腹筋後腹
P.123 L.5誤:高重量は加齢で減少正:脳重量は加齢で減少P.127 L.22誤:明所		P.112 L.10	誤: 2 点弁別閾 <mark>体の</mark>
正: 脳重量は加齢で減少 P.127 L.22 誤: 明 所		正:2点弁別閾は	
P.127 L.22 誤:明所	P.123 L.5	誤:高重量は加齢で減少	
		正:脳重量は加齢で減少	
正:暗所	P.127 L.22	誤: <mark>明</mark> 所	
		正:暗所	

P.127 L.24	31.2年の分子で
P.127 L.24	誤:3種の錐体で エ:2種の錐体の内で
D100 L C	正:3種の錐体の中で
P.128 L.6	誤:有 <mark>能</mark> 細胞数は <mark>現症</mark> は少ない。
D1FF 20	正:有毛細胞数の減少は少ない。
P.155 L.20	誤:正解:b、c (95A-43、一部改変)
D150 17	正:正解: c (95A-43、一部改変)
P.156 L.17	誤:正解: d (106A-321、類110A-1)
D1E0 ±1	正:正解: d (類110A-1)
P.158 表1 上から3行目	誤:両側(大きく開口)、両側(ゆっくり少し開口)
左から5列目、6列目	正:両側(ゆっくり少し開口)、両側(大きく開口)
P.159 L.16	誤:(下顎張反射、歯根膜咬筋反射。口腔粘膜刺激による閉口反射)
	正:(下顎張反射、歯根膜咬筋反射、口腔粘膜刺激による閉口反射)
P.159 図1	誤: 閉口筋伸張 別口筋内筋紡錘
	正: 引口筋伸張 三叉神経中脳路核 日本、 群線維 で
P.165 L.26	誤: d. 咬筋運動ニューロンは興奮 <mark>始</mark> 、
	正:d. 咬筋運動ニューロンは興奮し、
P.169 図1	誤:矢印は気流〔呼吸時〕および食塊〔嚥下 <mark>字</mark> 〕の流れを示す。
キャプション	正:矢印は気流〔呼吸時〕および食塊〔嚥下時〕の流れを示す。
P.172 L.11	誤: 舌咽神経の <mark>喉</mark> 頭枝を電気刺激すると
	正: 舌咽神経の咽頭枝を電気刺激すると
P.187 L.20	誤:歯髄内に発声した
	正:歯髄内に発生した
1	

この度は『スタディ生理学・口腔生理学』第3版をご購入いただき、誠にありがとうございました。 以上の箇所に関して誤りがございましたので、ここに訂正するともに深くお詫び申し上げます。